



## 兵役義務により日本へ

どういった経緯で日本に来てフランス語を教えるようになったんですか？

フランスには兵役という制度があるんです。兵役を務めるには、基地に入るとか1年間軍事訓練を受けるとかいくつか方法があるんですが、もう一つ16ヶ月以上公務員として外国で働く(Coopération)という方法もあるんです。25歳までにやらないといけなかったんですが、ずっと先延ばしにしていました。私は基地には行きたくなかったし、高校で英語やドイツ語を教えていたので、先生としてのポストを勧められました。でも、どこに派遣されるかさっぱり分からないんですよ。その時偶然あったポストが京大の向かいにある関西日仏学館だけだったんです。日本、その上京都、ということで私はすぐ“Oui!”(O.K!)と言いました。もともと京都には興味がなかったし、いつか必ず観光客として訪れようと思っていたので、お金をもらってこのような素晴らしい街に滞在できるなんて最高のチャンスだと思いその場でサインしました。それが92年の9月のことで、翌年の1月にはもうここに来ていました。

任期満了後は帰国する予定だったんですが、京都の歴史や文化に惹かれ京都に残ることにしました。それにもなって京都の祭事についての研究も始めました。16ヶ月の間十分京都を楽しもうと思っていたので、見たこと聞いたことを全部メモしていたんです。いろいろな人がそのメモをまとめて本にすることを勧めてくれました。“Fêtes Traditionnelles à Kyoto”(『京の伝統行事』)という題でフランスの出版社から今年の12月中旬に出版される予定です。

偶然日本に来ることになったわけですが、日本語を覚えるのは大変だったのではありませんか？

でも結局、日本について知りたい、という気持ちがすごい動機になったんです。日本に来ていろいろ新しいものを見て、例えば、伝統行事について知りたいと思っても、外国語で書かれたまともな本は全然無いんですよ。それにすごい不満を感じていたんですが、とにかく日本語で書かれたものを読むしかないと考えたんです。フランス語には女性名詞や男性名詞があるけど、日本語にはないですよ。そういう意味で日本語は楽だけど、漢字

があるでしょ。音読み訓読みには苦労しましたよ。何度も書いて覚えました。

言語を勉強するにも人それぞれですね。自分の好みに合った方法でやるしかないでしょう。私はNHKの手話ニュースを録画までして見ていました。あれは日本語の字幕があって、漢字にはふりがながついているでしょ。ふりがながついていたのはありがたかったな。

フランスの文化と比較して日本の文化をどう思いますか？

比較は難しいですね。フランスはカトリック教を伝統にしている国だから、生・病・死の概念なんか全然違うわけです。今回出す本では祭を通して日本人の思想の様々な側面を紹介したいと思っています。例えば、初めて「節分」という祭を聞いたとき、「鬼払い」というような説明を受けたんですが、英語に訳すと“exorcism”みたいになんか大袈裟な訳になるでしょ。けど、ヨーロッパ人の想像している“exorcism”と「鬼払い」との間のギャップはあまりにも大きい。そういう日本とヨーロッパ文化の違うところに惹かれます。研究を始めたのも好奇心からですね。

フランス語を教える際に工夫していることはありますか？

もちろん。語彙が少なくても会話は出来ると思っているんです。毎週の授業の中でやってみるんですけど、単語はいっぱい習っているわけじゃない。でも何かしらの会話は出来ますよね。言語ってあくまでもコミュニケーションの道具でしょ。だから授業も会話、会話でやりたいんです。途中で文法の復習をやったり、新しい表現を習ったりしてまた会話をします。その方法がいいかどうかは分からないんだけど、言語だから会話をしないといけないと思うんです。文法は欠かせないけど、それだけでは足りないですね。同じ会話のパターンを繰り返していけば自然に身につくと思っているんですけど、どうかな。あとは生徒次第です。

教えることは好きでやっているんです。兵役が終わった時はいろんなproposition(誘い)があって、一般企業に入ることも考えていたんだけど、結局教えることが好きなので教師という仕事をしています。言葉を通じて自分の国に触れることもできますし。

大学ではどんな勉強をしていたのですか？

外大で翻訳の勉強をしていました。英語とドイツ語、それと第3外国語としてアラビア語を勉強しました。よりよい外国語を身につけるために、休みにはガイドをしたり、もちろん留学もしました。

## Éric Faure



1968年リヨンの隣町サンティエヌで生まれる。ジャンモネ外国語大学を卒業。1993年1月兵役義務として関西日仏学館に派遣されて以来京都に魅せられ、今に至る。

はみだし  
すてーじ

総人なんて一生パンキョーでしょ。  
⇒パンキョーなめんなよ。



◀授業の様子

にしても字自体が綺麗でしょ。その頃は将来フランスにいるんだったら翻訳関係の仕事をしよと思ってたのかな。一方で卒論を教授が評価してくれて、将来は研究をするように勧められました。でも、とにかく兵役は避けられなかった。正直、日本に来ることになるとは思ってもみなかったです。

## イスラエル、東独、そして日本へ

イスラエルにもフランス語を教えに行きました。なんと言ってもイスラエルは三大宗教発祥の地でしょ。だから一回行くこう思っていたんです。でも、状況がかなり悪化してきて、もう危ないかなと思ってフランスに帰りました。

東ドイツにも行きました。共産主義国家の様子も見てみたかったというのがあります。やっぱり現場に行って自ら体験するのはまたちょっと違いますよね。たしかライプチヒの大学だったかで、フランス語の教師を探しているという広告を見つけて、早速連絡して雇ってもらいました。変わった体験でした。資本主義

がいいとは思っていませんけど、共産主義も恐ろしかった。フランスに帰った時はホッとしましたよ。でも大学では、本当は日本語か中国語、とにかくアジア系の言語をやりたいかなと思っていました。言葉の美みに興味があって、アラビア語

これからやりたいことはありますか？

今は翻訳の仕事も始めて忙しいですが、今後は平安時代の伝説に関する本などを書いていきたいです。プランは決まっていなくても京都だからまだまだ面白い話題はいっぱいあるでしょう。知れば知るほど終わりが無い。伝説と歴史との関わりについて調べているんですが、例えば、菅原道真とか安倍晴明は実際に存在した人でしょ。完全に伝説じゃないですよ。その微妙な境界、どこまで歴史でどこから伝説か、そういう研究をしていきたいです。

最後に京大生へのメッセージをお願いします

動機を持って外国語を勉強してください。単位のためだけだったらちょっと残念ですね。個人的に、言語はすばらしいものだと思っています。京大には可能性がいっぱいあるでしょ。だからフランス語でもドイツ語でもいい。この言語を勉強するって決めたら動機を持ってしっかりやってほしいですね。

ありがとうございました。

Merci beaucoup!

(取材: apis)

(理・1 三日月)  
(でも自信がない編)

はみだし  
すてーじ

東京大学からは菊川怜がでた。京都大学からも…。  
⇒う〜ん。

(総・4 岡田見典)  
(期待しましょう編)